

日本看護技術学会 第19回学術集会 交流セッション 第3回若手の会 若手研究者に向けた前理事長からのメッセージ 活動報告

開催日時 2021年10月9日(土) 16:00~17:30
話題提供者 日本看護技術学会前理事長 武田利明先生


研究活動推進委員会は、第19回学術集会において、若手研究者の支援を目的に第3回若手の会と題した交流セッションを企画・運営しました。話題提供者として前理事長の武田利明先生にご登壇いただき、輸液の血管外漏出について、基礎研究から実際の臨床で応用可能なエビデンスを得るための研究プロセスをご紹介頂きました。そして、研究プロセスを紹介いただく中で、若手研究者に向けたメッセージとして、**研究の一步目を踏み出す『勇氣』**、**研究を継続していく『根気』**、**研究を楽しむ『元氣』**を身に付けて行くためのヒントを頂きました。

ハイブリット形式でしたが、会場・オンラインのどちらからも質問や意見がある会となり、日本看護技術学会学術集会らしい交流集会となりました。武田先生およびご参加くださった方々に感謝申し上げます。

若手研究者に向けた武田先生からのメッセージ

研究の三気について

- 1) 一步を踏み出す『勇氣』
⇒ 優れた実践家の経験知から学ぶ(心地よい温度に看護観!)
・基礎研究のテーマは実践の場にある
- 2) 研究継続の『根気』
⇒ 実践家と研究者の看護観が同じ
・看護の基礎研究としての位置づけを理解する(スキマを埋める)
- 3) 研究者仲間と楽しむ『元氣』
⇒ 実践家と研究者はフラットに議論する
・研究成果を臨床の場に届ける(確かなケアと一緒に創出)



当日の交流セッションの様子



新たな手法でエビデンスを創出(多段階方式)

【実践報告】現場で評価
葛西ら; 点滴漏れ時の院内ケアマニュアルの使用経験, 看護技術学会誌;13巻(3号), 2014

薬液が漏れた直後は冷電法(よりレベルが高いエビデンス)

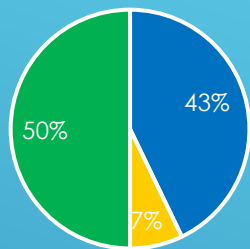
エビデンス創出の推進力は実践知(すき間を埋める)基礎研究

富山県R病院での再確認研究: 3段階
75歳以上の患者20名を対象に、輸液剤が漏出した場合について冷電法群と対照群で比較し、漏れた部位の腫脹と発赤の推移について検索した。その結果、発赤については冷電法群で有意に面積の縮小が認められた。第4回看護技術学会, 2005

2段階: 非臨床研究結果から冷電法が有効(実践知を補足・支援, 2003)
1段階: 埼玉県M病院の看護師は冷電法の有用性を実感(実践知, 2002)

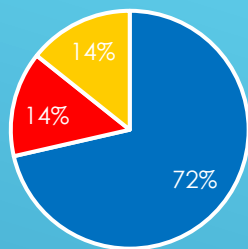
参加者アンケート集計結果

Q 今回の交流セッションを
何で知りましたか？



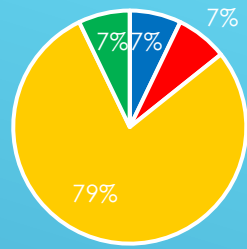
- 日本看護技術学会のHP
- 日本看護技術学会からのメール
- 指導教員からの勧め
- 学会員からのお誘い

Q 今回の交流セッションに参加した
きっかけを教えてください



- テーマに興味があったから
- 若手の知り合いを増やしたかったから
- 知り合いが参加していたから

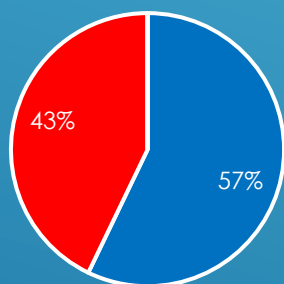
Q 今回の交流セッションの
時間はいかがでしたか？



- かなり長かった
- 少し長かった
- ちょうどいい長さだった
- 少し短かった
- かなり短かった

Q 今回の内容はいかがでしたか？

(理由)

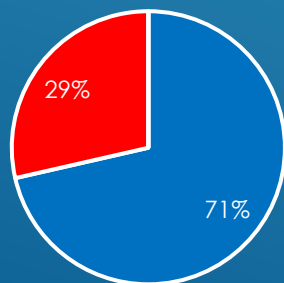


- とても満足している
- 満足している
- あまり満足していない
- 全く満足していない

・若手に多くのヒントをお話いただき、貴重な機会でした。
 ・研究を進めていく際に、どのような視点を持ち、工夫をして研究を推進されたかご経験を伺うことができ、学びになりました。
 ・研究のための研究を考えてしまいがちでした。今回の武田先生の講演を聞き、改めて臨床で何が必要とされているのかを考えなければいけないと感じ、とても勉強になりました。
 ・実践家と研究者が共に成果を積み上げていく実践例であり、貴重な講演でした。雰囲気も和やかで温かく良かったです。
 ・病棟スタッフが看護に「楽しさ」「やりがい」を持てるような環境を作るためにどのように関わっていけば良いかのヒントを得ることができました。
 ・質問する機会を持てたこと、質問しやすい雰囲気でした。
 ・武田先生のこれまでの研究の流れを詳細にお聞きできた。
 ・お話を聞いて、研究のやる気が出た。
 ・エビデンスに基づいた結果で、わかりやすかった。

Q また次回も参加したいと思いますか？

(理由)



- また参加したいと思う
- できれば参加したいと思う
- テーマによっては参加したいと思う
- もう参加しないと思う

・所属先以外の先生方や臨床の看護師の方と知り合う機会が少なく、今後もこのような機会に参加できればと思います。
 ・本日のセッションも現地に皆が集まって参加できれば、もっとフランクに疑問や課題等を共有でき、今後の研究活動のモチベーションアップになると思いましたので、ぜひ継続して企画していただき対面での交流セッションが開催されることを願っています。
 ・近年、効率的な看護が主体となってきているように感じているため、看護の楽しさについて今一度考えるきっかけとなり、自己の看護観を見直すきっかけとなったため
 ・若手の会を初めて知ったが、研究とはという基本的なことを考えることが出来た。先輩から研究者としてのお話を聞く、貴重な時間を貰った。
 ・マストな臨床でのテーマだったから。
 ・対面で、他の若手の皆様と交流したいと思ったから。